

平成21年度 決算のあらまし

平成21年度決算が、12月7日開会の第4回定例市議会で承認されたところです。決算については、例年広報やこのホームページでお知らせしていますが、財政のしくみは、言葉もむずかしく、わかりやすくお知らせしていたとは、いえません。今回はわかりやすさを優先しお知らせいたします。

もくじ

- 市の決算を家計簿にたとえてみて！……………1ページ
- 一般会計
 - いくらつかったの？……………2ページ
 - どんなことにつかったの？……………3ページ
 - 主な収入の内訳は？……………4ページ
- 特別会計って、どんなことをしているの？……5ページ
- 市の借金や貯金は、増えたの・減ったの？……6ページ
- 市の財政状況は健全なの？……………8ページ

※詳細の決算書をご覧になりたい方は、[こちら](#)をご覧ください。

1 市の決算を家計簿にしてみました

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
給料	50,641	食費	46,823
親からの援助	120,569	医療費など	29,723
利子や株の配当など	11,232	ローン返済	61,274
子ども手当など	51,662	衣服費など	37,652
アパートの家賃など	18,144	家の増築や補修	54,811
預金取崩など	16,729	子どもへの仕送り	20,009
新たなローン	30,095	預金など	11,660
先月の残金	927	団体などの会費	32,048
合計	300,000	合計	294,000

※各項目と、市の支出科目の対応や実際の決算額については、[こちら](#)をご覧ください。

市の一般会計収入161億8千万円を月収30万円の家庭の家計簿に置き換えてみました。収入では、自ら稼ぐ給料（市税）よりも、親からの援助（地方交付税）や子ども手当（国・道補助金）などに頼りながら、生活している状況です。

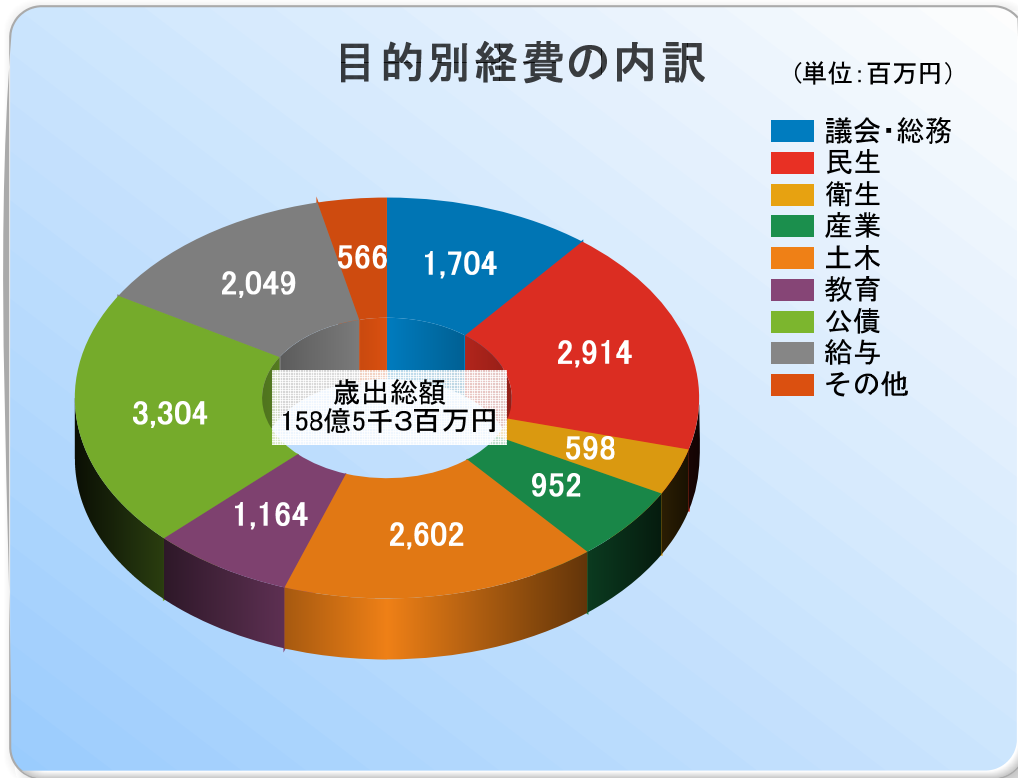
支出は、ローンの返済（公債費）が重く、さらに住宅の補修（普通建設事業費）も必要となり新たなローン（市債）や預金取崩（基金繰入）を行い実施しました。食費や衣服費（人件費・物件費）を減らしながらやりくりしています。今後は、医療費（扶助費）や子どもへの仕送り（特別会計などへの繰出金）なども年々増加していくことも予想されます。それでも、今月は、6千円ほどの黒字（翌年度への繰越金）となりました。黒字は、半分を預金（基金積立）に回し、残りは不意の出費に備え（翌年度の補正予算の財源）繰越しました。

新たなローン（市債借入）や預金取崩（繰入金）をしているのに、どうして黒字といえるの？

市の会計は、その年の支出はその年の収入でまかなうというきまり（現金主義・会計年度独立の原則）により経理しており、収入には、新たな借入や預金の取り崩しも集計され、支出は、現金として支払ったものを集計し、収入総額から支出総額を差し引き、黒字か赤字を決めています。いわば、民間企業のキャッシュフロー計算書とよく似た構造です。これでは、資産や負債の関係が見えにくいことから、民間企業と同様に貸借対照表などの財務4表を作成しようとしているところで、平成22年度決算では、これを活用し、決算をお知らせします。

2 一般会計では、いくらつかったの？

一般会計の平成21年度歳出総額は、158億5,330万7,557円となりました。その主な使い道を目的別に分類したのが、下のグラフです。



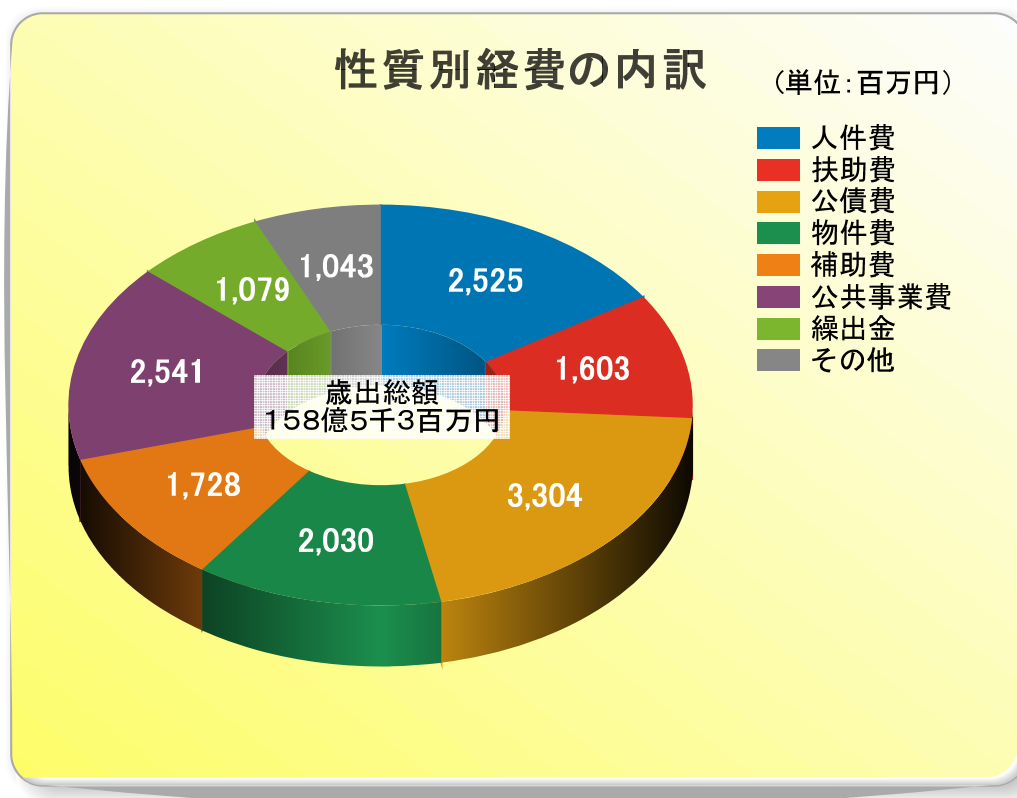
黄緑の**公債費**(過去に発行した市債の償還元金や利息)が全体の20.8%を占めています。続いて、赤色の**民生費**(障がいのある人や高齢者、児童福祉、生活保護などの経費)が、18.4%となりました。三番目が、オレンジ色の**土木費**(道路や港湾、市営住宅などの経費)で、16.4%となっています。

158億円という歳出の規模は、人口が同じくらいの都市と比べて、多いの、少ないの？

人口規模が似ている都市(紋別市は24,912人(H22.3月末))では、美唄市(26,359人)が約177億円、留萌市(25,021人)が約139億円、富良野市(24,270人)が約105億円、深川市(23,858人)が約164億円となっています。でも、歳出総額の比較は、大型事業を実施した場合に大きく上昇することから、単純な比較はできません。

3 どんなことにつかったの？

下のグラフは、歳出を性質別に分類したものです。時計回りに、職員給与や議員・各種委員の報酬などの**人件費**、生活保護費などの**扶助費**、市債の元利償還金である**公債費**、これら三つの経費が、任意に削減できない性質のものであることから義務的経費と呼ばれるもので、歳出全体の47%を占めており、硬直性の高い財政構造となっています。

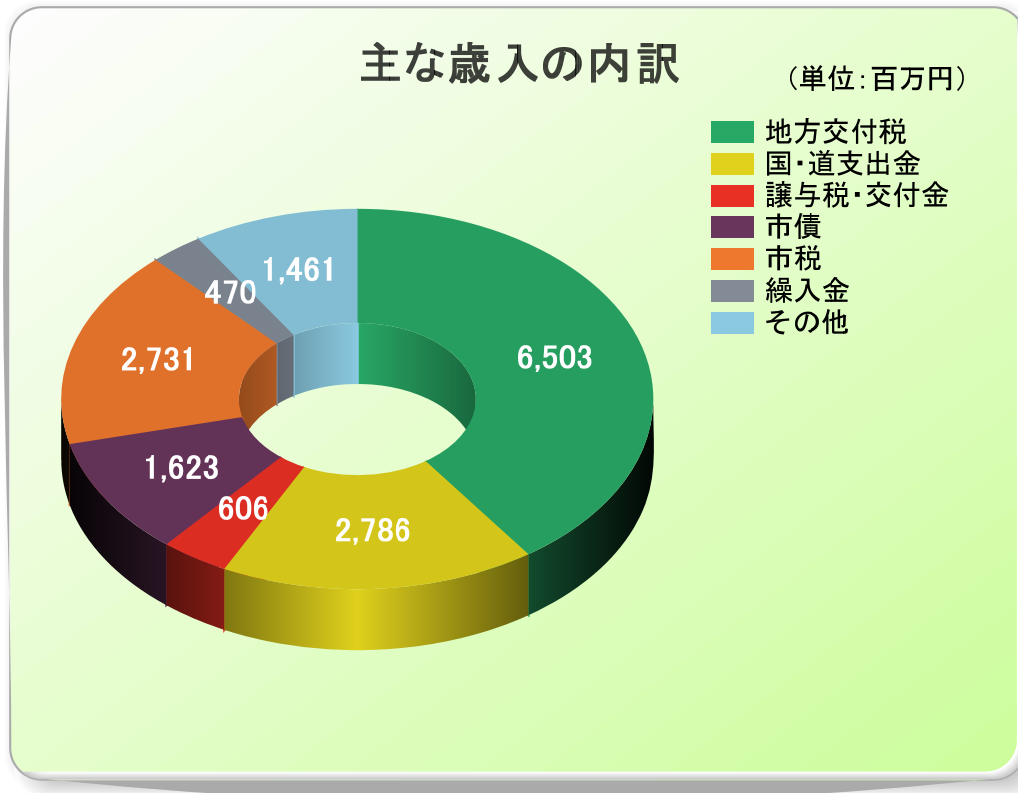


施設の管理費や事務的経費などの**物件費**は、歳出総額の13%で、行政事務執行の経費が8億9千万円、施設の管理委託等が11億4千万円という内訳になっています。

道路や施設の建設などの**公共事業費**は、歳出総額の16%を占めており、主な内訳は、道路整備や港湾整備、大山団地改築などを行った土木費が、12億2千万円(公共事業費に占める割合は、48%)、紋別小学校改修や小中学校校舎耐震診断、スポーツセンター改修を行った教育費が、3億8千万円(同15%)、市有林造成や農道整備などを行った農林水産業費が、2億5千万円(同10%)となっています。

4 主な収入の内訳は？

下のグラフが、紋別市の歳入の内訳です。グラフを時計回りで見ると、紫色の市債までが、国を経由するなど市の裁量が制限される依存財源となっており、全体の71%を占めています。残り29%が市税からその他までの、自らの権限で収入できる自主財源となっています。



自主財源の多い市と少ない市では、市政運営にどのような違いがあるの？

自主財源の乏しい紋別市は、基本的な住民サービスを行うための費用を市税でまかなえていません。その不足分を国から地方交付税として交付されています。地方交付税は、国が個人や会社にかけている税金など（所得税、法人税、酒税、たばこ税、消費税）の一部を、地方の税収に応じて交付することで、全国どこに住んでいても基本的な住民サービスを保証する仕組みとなっています。

この地方交付税を始めとする依存財源の割合が多いということは、国が財政再建に向けた緊縮予算を編成した場合に、著しい影響を受けやすい、財政構造といえます。

5 特別会計って、どんなことをしているの？

特別会計とは、市のサービスにより利益を受ける市民が限定している場合、利益を受ける皆さんがそのサービスにかかる経費を負担すべきという考えで、一般会計から切り離して設置されるものです。紋別市は、下表の10の特別会計が設置されています。

特別会計は、会計独立の原則により運営することとなっていますが、実際は一般会計からの繰入金があり、会計が独立しているとは言い切れません。

各会計の収支は、港湾埋立事業を除き、黒字もしくは、収支がゼロとなっています。

特別会計名	歳入総額	歳出総額	差引
国民健康保険事業	2,846,382	2,808,129	38,253
港湾埋立事業	111,440	235,417	▲ 123,977
簡易水道事業	40,855	40,855	0
交通災害共済事業	4,103	4,103	0
土地取得事業	114,594	114,594	0
老人保健事業	75,978	38,789	37,189
営農飲雑用水道事業	36,292	30,875	5,417
介護保険事業	1,315,659	1,310,428	5,231
介護老人福祉事業	262,087	262,087	0
後期高齢者医療事業	254,529	253,806	723
合計	5,061,919	5,099,083	▲ 37,164

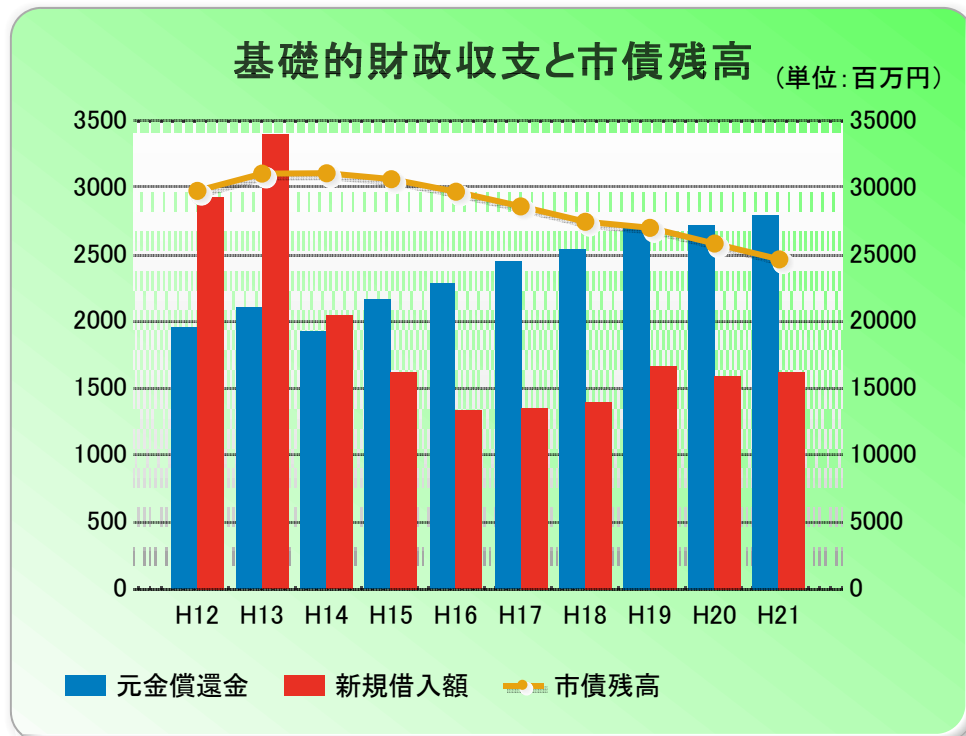
港湾埋立事業の赤字は、解消できるの？

港湾埋立事業の平成21年度末の決算では、上の表のとおり累積赤字が、約1億2千4百万円で、さらに、未償還の市債元金が7億7千4百万円となっています。赤字の原因は、紋別港第三埠頭を埋立造成した工業用地の売却が進まないまま、港湾施設や用地造成のために借り入れた市債の償還を行わなければならないためです。販売用土地は時価評価額で、7億9千3百万円ほど保有していることから、土地の売却が進めば十分解消可能（施設使用料等の収入もあるため）です。しかし、経済不況が続いており、なかなか売却が進まないのが現状です。

6 市の借金や貯金は、増えたの・減ったの？

下のグラフは、基礎的財政収支（プライマリーバランス・数値軸は左側）といわれるもので、青い棒が過去に発行した市債の元金償還金で、赤い棒がその年に新たに借り入れた市債の額です。青い棒より赤い棒が多いと、基礎的財政収支は赤字となり、借金が増加している状態を表します。

紋別市は、平成15年度以降、基礎的財政収支は黒字で推移しており、特に近年は、10億円以上の黒字（借入残高の減少）を確保しています。



このグラフの折れ線グラフは、一般会計の市債残高の推移です（数値軸は、右側）。残高のピークである、平成14年度には、311億円まで達していた残高も、財政の健全化を推進した結果、平成21年度には、247億円まで減少しています。下表は、市の全会計の市債残高の内訳となっています。

平成21年度末の全会計市債残高 (単位:百万円)

	平成20年度 末現在高	平成21年度		
		新規発行額	償還元金	末現在高
一般会計	25,834	1,623	2,804	24,653
港湾埋立事業会計	846		72	774
簡易水道事業会計	184		15	169
下水道事業会計	10,722	590	996	10,316
水道事業会計	4,843	275	454	4,664
合計	42,429	2,488	4,341	40,576

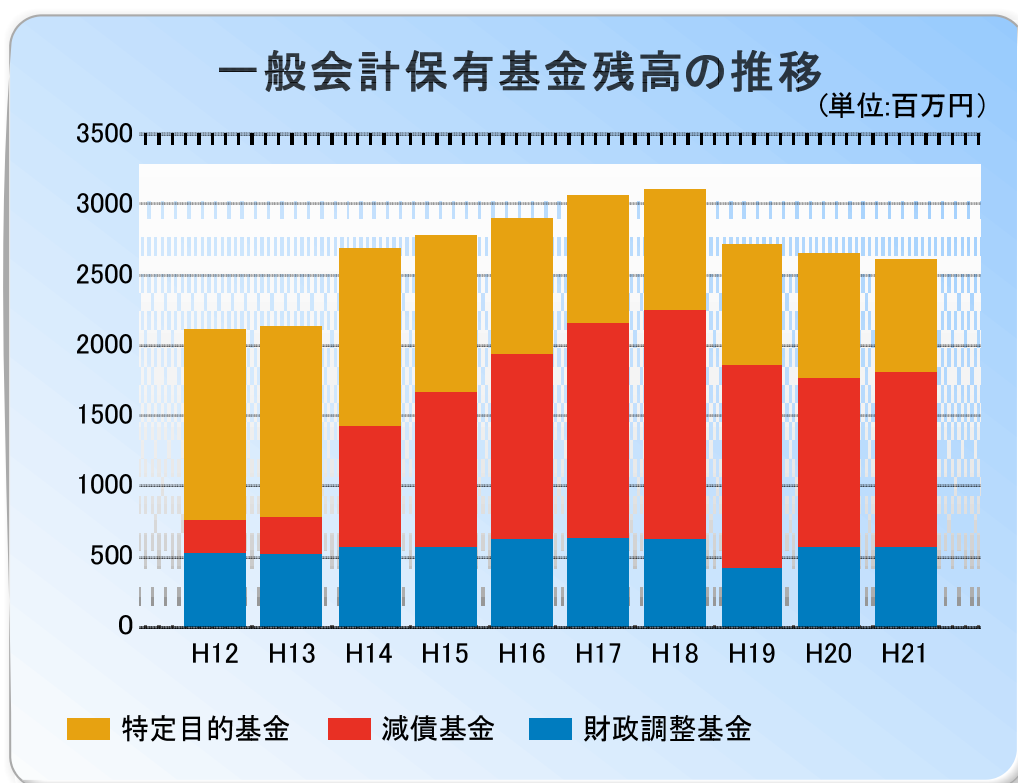
【基金の状況】

下のグラフは、市の基金（預金）残高の推移を表したものです。

積み上げ棒グラフ下段の**財政調整基金**は、年度間の財源の不均衡をならすための積立金で、使途も条例で、経済財政事情の変動等により財源が著しく不足する場合や災害復旧、緊急やむを得ない土木事業などに制限されています。

中段の**減債基金**は、市債の償還に備えるための基金です。平成19年度以降、残高が減少しているのは、過去に国から借り入れた市債のうち、高金利（5%以上）のものについて、行政改革の実績などにより繰上償還することが認められたことから、基金を取り崩して償還したことによるものです。

上段の**特定目的基金**は、国や道の交付金や皆さんの寄附金などを原資として、特定の目的のために（例えば、社会福祉基金であれば、福祉事業の振興のため）、使われます。近年残高が大幅に減少している原因は、元金を運用して発生する利子により事業を行っていた基金において、低金利により事業の遂行が困難となったことから、基金元金を繰入ながら事業を実施せざるを得なくなったことによるものです。



7 市の財政状況は、健全なの？

市財政の健全度を表す指標としては、実質公債費比率・将来負担比率などの指標が使われます。

実質公債費比率とは、自治体の収入規模に対する借金返済額の割合です。この比率が高くなると新たな借金が制限されます。比率の目安としては、18%を超えると起債に知事の許可が必要になり、さらに25%を超えると財政健全化計画の策定が義務づけられます。35%を超えると財政再生団体として、国や北海道の強い指導の下、再生を進めてゆくこととなります。紋別市は、この比率が高かったことから、市債発行に知事の許可が必要でない18%以下とすることを目標に、市債の新規発行の抑制や繰上償還を実施し、本年ようやく目標を達成することができました。

将来負担比率とは、公社や第三セクターなども加えた連結ベースで、自治体が将来的に負担する可能性のある借金の総額が、自治体本体の1年間の収入と比べどれくらい多いかを示す指標です。早期健全化基準は、350%となっています。紋別市は、多額の累積赤字を抱える特別会計や第三セクターがないことから、今後とも低位で推移するものと考えています。

下の表は、本市の指数と道内都市の順位（数値が低い方から）です。

健全化指標の推移

	実質公債費比率		将来負担比率	
	指数	順位	指数	順位
平成19年度	19.9	26	129.9	9
平成20年度	19.0	26	96.5	6
平成21年度	17.0	22	98.0	8

ゴミ処理施設や広域紋別病院など、お金のかかりそうな事業が実施されていますが、将来の健全度は大丈夫なの？

広域病院は、移管のための財政支援として98億円が道から交付されることから、当面は市民の負担はありません。ゴミ処理施設（西紋4市町村で建設）については、借り入れた地方債の市負担分の元利償還金が、毎年2億円程度発生する見込みです。しかし、バブル経済崩壊後の、国の経済政策に歩調を合わせ、港湾事業や公営住宅、博物館などの大型事業を実施するため借り入れた市債の償還も徐々に終了していることから、急激な指標の悪化はしないものと考えています。ただし、ゴミ処理施設については、現在の埋立方式から焼却方式へ変更となるため、ランニングコストが大幅に増加する見込みです。